

自然と文化豊かな長野県安曇野地域に位置し、 多様なレクリエーションニーズに対応した国営公園 ～国営アルプスあづみの公園の概要～

「国営アルプスあづみの公園」は、失われつつある安曇野の田園風景を保全・復元し、いつでもその風景にふれたり、「安曇野」という地域の自然・文化を短時間で体験できる「堀金・穂高地区」と、日本を代表するアルプスの山岳景観につながる良好な自然環境を保全しながら、その自然環境を学び、体験し、参加できる「大町・松川地区」の2地区から構成され、整備をしている国営公園である。



開園時の地元の新聞報道

■経緯

- 平成2年4月 事業採択
- 平成10年10月 着工
 - 平成11年度 事業評価（再評価）実施
- 平成16年7月 堀金・穂高地区一部（約27ha）開園
- 平成21年7月 大町・松川地区一部（約79ha）開園
 - 平成21年度 事業評価（再評価）実施
 - 平成24年度 事業評価（再評価）実施



■位置図



プロジェクト着手前

■ 諸元

事業採択	平成2年4月	工事着手	平成10年10月
事業計画面積	349ha		
開園	平成16年7月堀金・穂高地区一部開園	約27ha	
	平成21年7月大町・松川地区一部開園	約79ha	



● 大町・松川地区

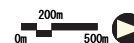


● 堀金・穂高地区

計画平面図

大町・松川地区 計画面積255ha

堀金・穂高地区 計画面積94ha



国営アルプスあづみの公園の2地区が立地する地域一帯は、北アルプスの雄大な景観のもと、昔ながらの田園風景が残る全国的にも有数の観光地である。

また、2地区を結ぶ県道沿いには多くの美術館が立ち並び、通称「安曇野アートライン」の一部にもなっており、本プロジェクトは、豊かな自然と文化にふれられるレクリエーションエリアの一翼を担っている。



展示・研修室



ガイドセンター



子どもの遊び場



堀金・穂高地区(平成16年撮影)

プロジェクト着手後

園内の施設

1. プロジェクトの内容と目的

国営アルプスあづみの公園は、「自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現～自然の中で感性を育む～遊・創・空間～」を理念として、表1の基本方針の実現を目指した整備・管理を目的として進められているプロジェクトである。

また、国営アルプスあづみの公園では、公園の整備とあわせて、図1に示す社会ニーズへの対応を含む「4+1」の取り組みとして、地域の自然、文化の継承と、地域活性化、防災などによる地域への寄与を図っている。

表1 国営アルプスあづみの公園の基本方針

基本方針	(1) 自然環境の保全	生物多様性に富んだ自然環境との共存を目指した保全活動や啓発活動の推進
	(2) 広域レクリエーション	日本を代表する自然環境の中で、安らぎ創出や健康づくりにつながる楽しみを各種体験・学習プログラムを通じて提供
	(3) 景・文化の保全と創出	第一級の山岳景観と雄大な田園景観が一体となった安曇野地域の景観及びこれをはぐくむ豊かな風土・文化の保全と創出への貢献
	(4) 交流・地域活性化	公園が地域滞在型観光の拠点となるとともに、園内資源を活用し、地域と連携した地域活性化への貢献
	(5) 情報発信	安曇野地域を舞台にして、豊かな自然のなかで育まれてきた風土・文化とこれからの暮らし方についての新たな発見を導く情報を発信
	(6) 参加	公園の整備・管理運営において、地域、企業、利用者など、様々な立場、多様な世代からの参加を促進
平成2年 国営アルプスあづみの公園基本計画検討委員会において策定（平成13、23年度改定）		

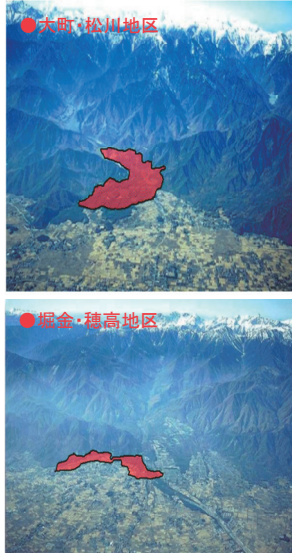


図1 国営アルプスあづみの公園による「4+1」の取り組み

■諸元・概要図

※平成24年度事業再評価時点

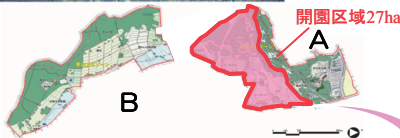
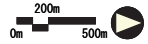
事業採択	平成2年4月	工事着手	平成10年10月
事業計画面積	349ha		
開園	平成16年7月堀金・穂高地区一部開園	約27ha	
	平成21年7月大町・松川地区一部開園	約79ha	



計画平面図

大町・松川地区 計画面積255ha

堀金・穂高地区 計画面積94ha



A	田園文化ゾーン (46ha)	安曇野の自然と文化のインフォメーションの中心となるゾーン
B	里山文化ゾーン (48ha)	安曇野の風土の継承につなげていくゾーン

開園区域の主な施設

- 展示・研修室
- ガイドセンター
- 段々原っぱ
- 段々花畑
- 展望テラス
- 池

堀金・穂高地区



A	センターゾーン(32ha)	多様な自然体験交流を導く起点となるゾーン
B	林間レクリエーションゾーン(22ha)	自然の中で多様な楽しみを提供するゾーン
C	溪流レクリエーションゾーン(16ha)	水辺の魅力と楽しみを満喫できる空間を提供するゾーン
D	保全ゾーン(37ha)	多くの生き物の生息環境となっている森林を保全しながら、より良い環境に育て上げていくゾーン
E	自然体験ゾーン(148ha)	様々な体験プログラムを提供し、環境を保全しながらより本物の自然に近づける人材育成に貢献するゾーン

大町・松川地区

開園区域の主な施設

- インフォメーションセンター
- 子どもの遊び場
- 樹林観察デッキ
- 体験工房
- 芝生広場

2. プロジェクトの効果

1) 種々の定量的効果

a) 入園者数の順調な増加

国営アルプスあづみの公園の入園者数は、平成16年度の堀金・穂高地区の開園以降、年間約20万人から約30万人と順調に増加し、平成21年度の大町・松川地区の開園以降は、2地区合計で45万人以上となり、平成23年度には過去最高の約52万人を記録している。

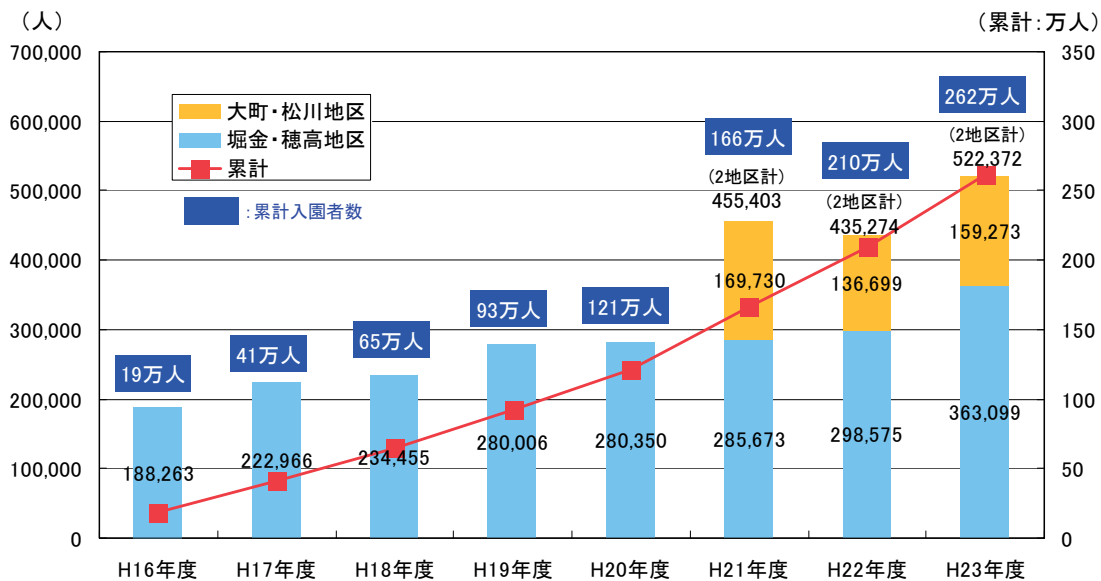


図2 入園者数の推移

b) 公園周辺市町村の観光客増加との相乗効果

国営アルプスあづみの公園の開園以降、公園周辺の市村では、観光地利用者数が増加しており、周辺の観光施設も充実し、2地区を結ぶ県道(アートライン)では、開園以降、飲食店をはじめとした観光施設が増加している。

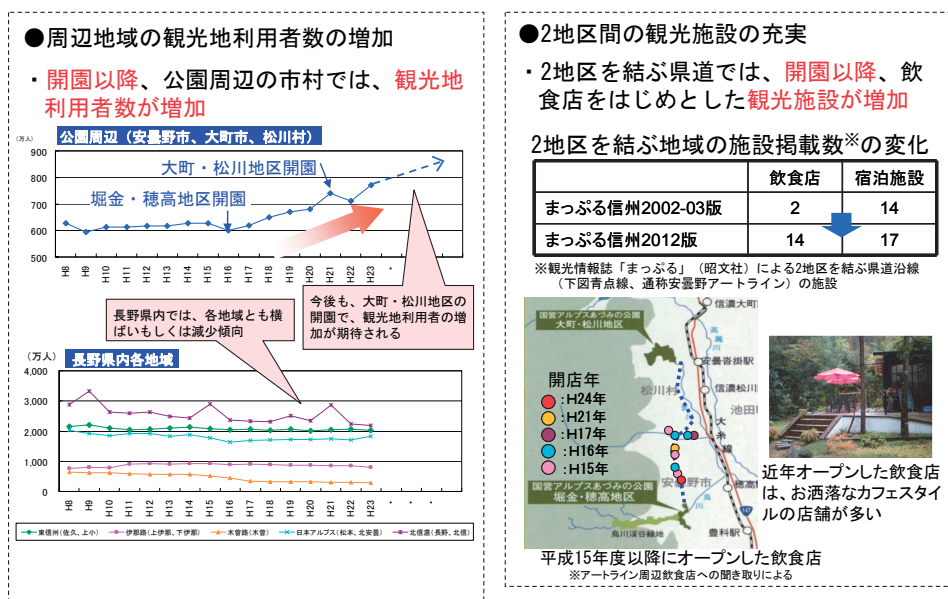


図3 周辺地域の観光地利用者の増加状況と2地区間の観光施設の充実状況

c) プロジェクトへの投資効果

本プロジェクトの用地費、整備費および維持管理等の総費用(C(Cost))に対する投資効果を、公園供用による直接利用価値、さらに環境および防災面へ間接的にもたらされる効果として地域が受益している総便益(B(Benefit))であると想定できるため、この費用便益比(B/C)の関係を投資効果として分析した。

■プロジェクトの投資効果の分析

$$\begin{aligned} \text{費用便益比 (B/C)} &= \frac{\text{耐用期間 (50年) の直接・間接的利用価値}}{\text{建設費+耐用期間 (50年) の維持管理費}} \\ &= \frac{1,909 \text{ 億円}}{1,120 \text{ 億円}} = 1.7 \end{aligned}$$

経済的内部収益率 (EIRR) = 6.97%

※建設～耐用期間の総費用、総便益については、物価の変動や利率などによる社会的な貨幣価値の年変動を、社会的割引率4%として考慮（現在価値化）し、算定している。
 ※費用便益比及び経済的内部収益率の数値は、平成24年度事業再評価時点の数値である。

2) その他の効果

a) 2地区及び周辺環境施設との相乗効果による地域活性化

国営アルプスあづみの公園の2地区は、図4に示すように、北アルプスエリアと松本や首都圏を結ぶルートに位置することから、周辺の観光施設との相乗効果により、①北アルプスエリアへの誘客、②2地区及び周辺への誘客、③松本周辺の観光施設とのセットでの誘客、などによる地域活性化の効果が見込まれている。国営アルプスあづみの公園では、このような相乗効果を果たすべく、2地区を活用した広域イベントとして「アルプスあづみのセンチュリーライド(サイクリングイベント)」などを開催している。

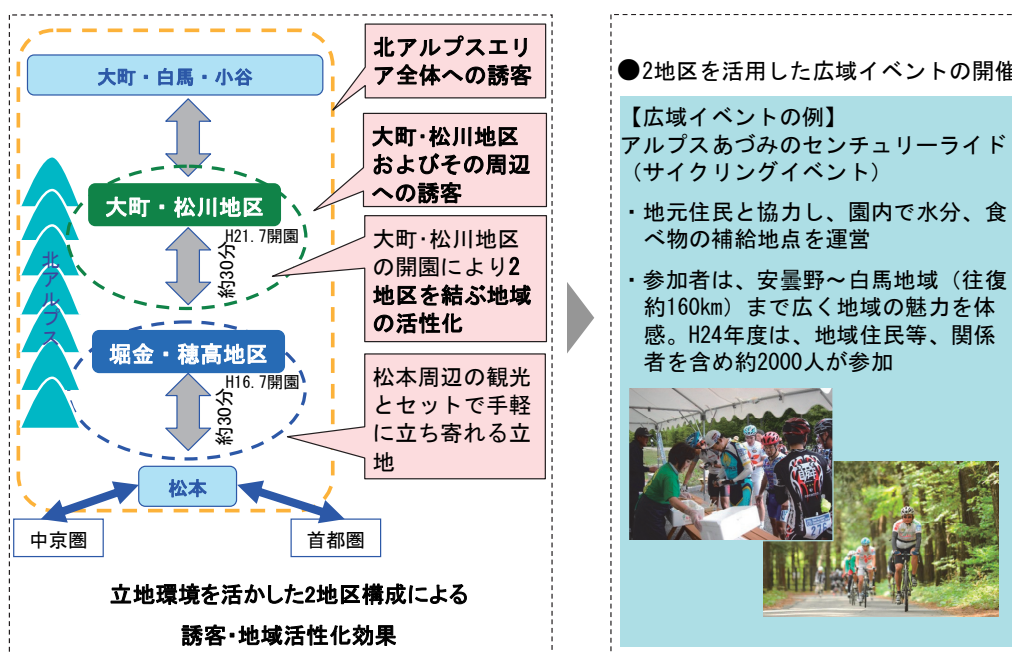


図4 2地区及び周辺環境施設との相乗効果


b) 地域防災への貢献

国営アルプスあづみの公園の2地区の敷地、施設は、災害時の防災拠点としての機能が期待されており、「プラス1」の取り組みとして、図5に示すように、園内施設の防災機能強化(停電対応等)、オープンスペースの機能強化(大型車両の乗り入れや物資保管スペースの確保等)を進めている。

また、国営アルプスあづみの公園の防災拠点化は、例えば、JR大糸線沿線で災害が発生した場合、アクセス性の良さを活かして、松本地域から北安曇地域までの広域な範囲が本公園の支援地域として想定される(図6)ことから、災害時の効果発現が大いに期待されている。

●防災拠点機能の強化

- 園内施設の防災機能強化



ソーラーパネルによる停電時対応

●オープンスペースの防災機能強化整備

- 災害時に大型車両が乗り入れ可能な駐車場や物資の保管スペース等の整備




図5 災害時の防災拠点としての「プラス1」の取り組み

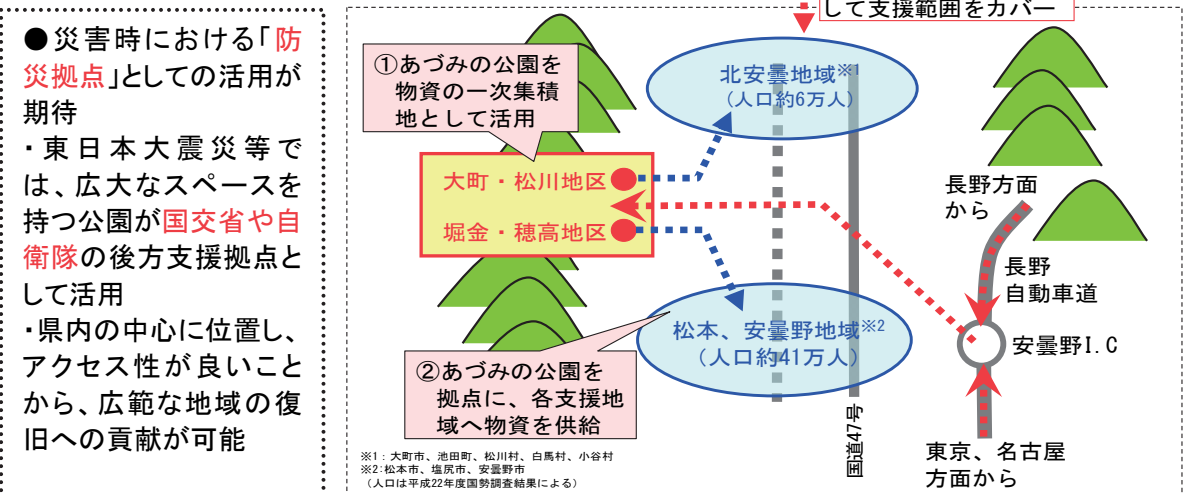


図6 あづみの公園を活用した広域防災のイメージ

3. プロジェクト実施にあたっての特記事項

1) 地域の生活文化・景観の保全継承

国営アルプスあづみの公園では、図7に示すように「里地・里山など、二次的自然の保全」、ボランティアとの協働による森林等管理などに取り組んでおり、このような取り組みは、地域景観の永続的な担保につながっており、NHK連続テレビ小説「おひさま」のロケ地としても活用された。

●里地・里山など、二次的自然の保全



里山林 (堀金・穂高地区)

棚田 (堀金・穂高地区)

●ボランティアとの協働による管理活動



森林での間伐、下草刈り (大町・松川地区)

●地域景観の永続的な担保

- 地域景観の向上に寄与



保全された棚田景観 (堀金・穂高地区)



住居が散在
公園に隣接の棚田 (民地)は徐々に開発が進む

●地域活性化への貢献

- NHK連続テレビ小説「おひさま」のロケ地として活用。H23年度安曇野エリアを含めた松本地域の観光客は県内で唯一増加

図7 地域の生活文化・景観の保全継承への取り組み

2) 園内の貴重生物の保全

開園以来、図8に示すとおり昆虫類、植物、猛禽類、大型哺乳類の貴重生物のモニタリングと調査研究を継続し、貴重生物種の保全につとめている。


また、近年、里山等の生息環境の消失とともに減少し、現在日本では安曇野市を含む4地域のみ

園内に生息、生育する貴重種	環境省レッドリスト	長野県レッドデータブック
植物	8種	22種
昆虫	16種	28種
猛禽類	9種	11種

- 継続的なモニタリング
 - ・昆虫類 (H9~21年)
 - ・植物 (H9~21年)
 - ・猛禽類 (H8~22年)
 - ・大型哺乳類 H9~23年)

図8 開園以来の貴重生物のモニタリング調査の状況

- 貴重種に関する調査・研究
 - ・全国的に貴重なオオルリシジミの保護区（約1ha）を設置



里山等の生息環境の消失とともに減少。現在日本では安曇野市を含む4地域のみが生息

オオルリシジミ
環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類
長野県レッドデータブック：絶滅危惧ⅠB類


- オオルリシジミの保全技術の確立
 - ・信州大学が公園内の調査によりオオルリシジミの天敵の1つであるメアカタマゴバチを特定
 - ・天敵であるメアカタマゴバチの駆除に有効な「野焼き」を大学と共同の下、実施
- 自然観察会、環境学習等への利用
 - ・体験プログラムにより地域の子供へオオルリシジミと触れ合える機会を提供

図9 貴重種のオオルリシジミの保護


3) 地域文化、自然環境を活かした体験プログラムの提供による地域貢献

園内では、図10に示すように地域の多彩な自然・文化の両面を学習、体験できるプログラムを提供しており、長野県外からの修学旅行をはじめ、多くの団体客にも利用されていることから、安曇野の自然と文化の伝承・普及への貢献につながるものと考えられる。

- 多彩な自然・文化体験プログラムを提供。年134種類のプログラムを実施（H23年度実績）



自然体験プログラム

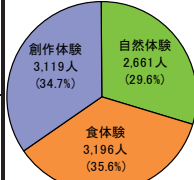


地域文化体験プログラム

- ・近隣の公園、観光施設では、自然散策、クラフト体験などがメイン
- ・本公園では、安曇野の自然と文化の両面が、学習・体験できる
- ・長野県外からの修学旅行をはじめ、多くの団体客にも利用されている

実施プログラムの例

自然	【おもしろ発見塾】 草花、木、昆虫、石、化学等をテーマとした実験や観察を体験
食	【お小屋】 農繁期に小腹を満たしていた「お小屋」の風習を体験
創作	【森のカレンダー】 コルクボードに間伐材の木片を使い、万年カレンダーを製作



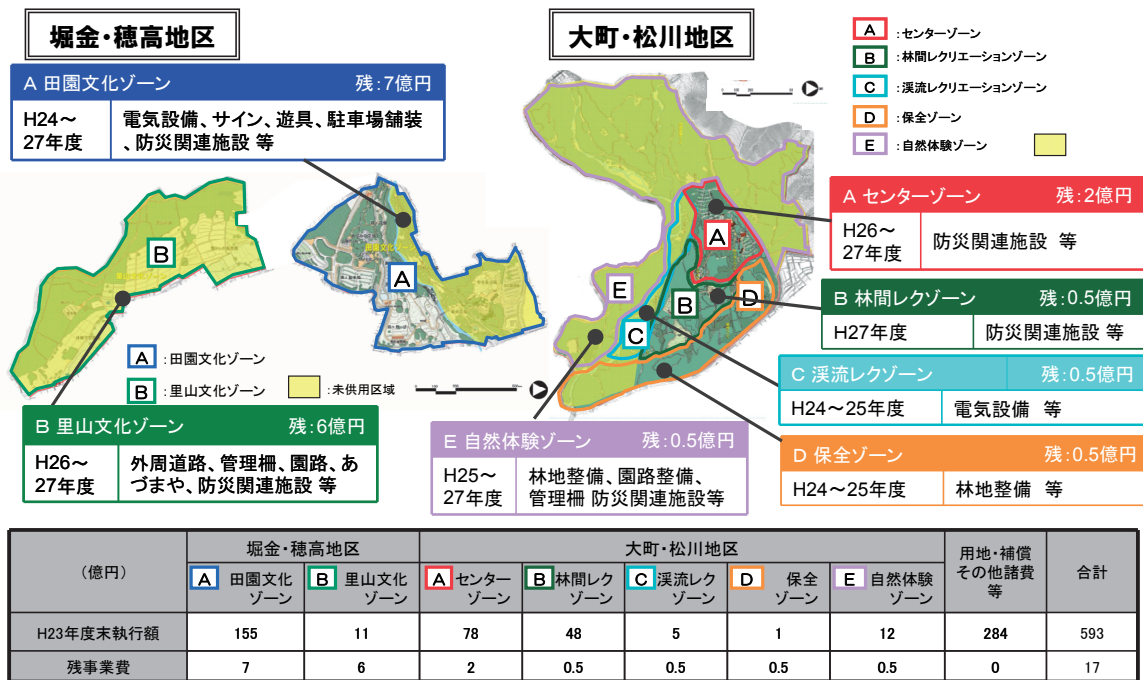
合計 8,976人
団体での体験利用者数 (H23年度大町・松川地区)

図10 地域文化、自然環境を活かした体験プログラムの提供

4) 今後の全面供用にむけて

国営アルプスあづみの公園では、図11に示す残りの未供用区域の園路整備や外周柵など有料公園として必要な整備及び防災関連施設の整備を進めており、平成27年度の全面供用を目指している。

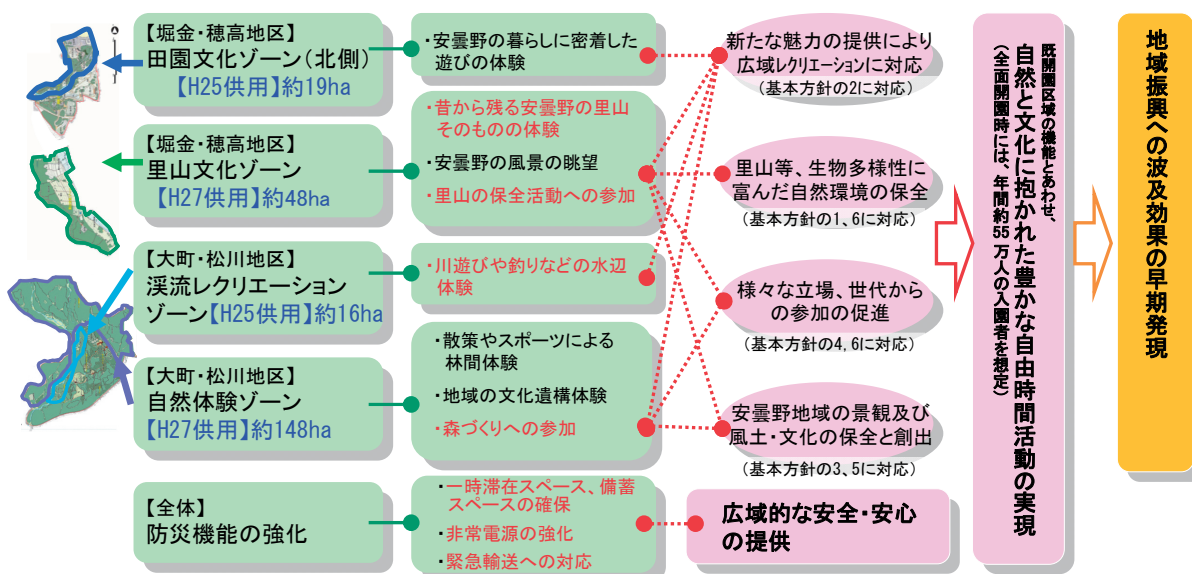
全面供用による新たな魅力の提供等で、図12に示すとおり、利用者の満足度向上や、里山環境の質の向上が見込まれ、地域活性化へさらなる貢献するとともに、園内の防災機能の強化により、広域的な地域の安全・安心を提供していく。



※供用範囲及び各ゾーン執行済額は、平成24年度事業再評価時点のものである。

※端数処理により、合計額は一致しない

図11 全面供用に向けての整備計画



赤字:追加されるメニュー 黒字:既存メニューの強化

※各ゾーンの供用年度は、平成24年度事業再評価時点の予定年度である。

図12 全面供用により期待される効果

4. 本プロジェクトによって得られたレッスン

本プロジェクトは、現在、広域(東京圏、中京圏)のレクリエーションニーズにも対応し、2地区に展開することで、松本から北安曇地域の地域活性化に貢献しており、多くの文化体験プログラムや里山景観の保全を通じて、地域の文化を広く発信、伝承にも寄与している。

このような効果と、周辺観光施設との相乗効果による地域活性化等の観点から、本プロジェクトの有効性が認められるため、全面供用による早期の効果発現を図る必要がある。

また、自然・文化資源の保全・展示、地域と協働した管理による里地里山の保全、モニタリングを通じた生物多様性への対応等の社会ニーズに、今後も対応していく必要がある。

さらに、防災機能の強化により、公園利用者及び広域的な地域へ安全・安心を提供していく必要がある。

5. 考察

公園の整備・運営にあたっては、安曇野の自然と文化の保全・創出を通じて地域との連携を図ってきたところであるが、現在整備中の里山文化ゾーン及び自然体験ゾーンが早期に開園することにより、安曇野の文化の伝承や水辺・樹林地での自然体験ができる環境を生かし、地域の活性に寄与できるものと考ええる。

また、平成26年7月7日には、陸上自衛隊と「災害時等の国営公園の占用に関する協定」を締結したところであり、広域防災拠点としての活用による地域の安全・安心を提供する場として、既存施設改修などの対応を進めてまいりたい。



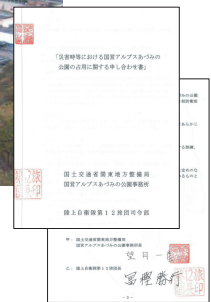
郷土文化の伝承(三九郎)



水辺・樹林地での自然体験



国営公園での陸自活動拠点の展開状況



国営公園の占用に関する協定書

【参考資料について】

本プロジェクトの参考資料については、下記の関東地方整備局のウェブページでご参照いただけます。

参照 URL : <http://www.ktr.mlit.go.jp/shihon/shihon00000093.html>